

令和3・4年度

長崎県教育委員会・諫早市教育委員会指定

ふるさとの新たな魅力を創出するキャリア教育実践事業

研究紀要

【研究主題】

ふるさと「小野」を愛し、誇りに思い、
新たな魅力を創出する生徒の育成
～持続可能な校区の未来を地域とともに考える探究活動～



令和4年12月16日（金）

諫早市立小野中学校

はじめに

諫早市立小野中学校長 矢川 豊彦

私たちの教育の地平には、将来の日本を背負っていく国民の育成という大目標があります。その中で教育を受け、学ぶ子どもたちが実際に背負うのは、具体的には彼らが将来生活する地域社会です。ふるさと小野で地域とともに学び、地域に愛されながら子どもたちが育つ。そうして育った子どもたちはふるさとであろうとなかろうと、自らが生活する地域で人や社会のために貢献するはずです。

しかし、学校で教育を行う教職員も学ぶ子どもたちも入れ替わっていきます。学校が家庭・地域との連携の中で子どもたちを育て、子どもたちと地域をつなぐものであり続けるためには、変わりゆく学校や地域社会の中で、5年、10年経っても変わらず取組を継続していくことのできる組織的基盤を構築し、その仕組を整えておくことが何より重要です。そうした中でこそ子どもたちの力は発揮され、地域に具体的に貢献する人財になっていくことができると考えるからです。

以前、諫早市PTA研究大会の分科会で、私は次のような話をさせていただきました。「子どもたちは将来、それぞれの地域を担っていく人材です。地域に愛されて育った子どもたちは、地域に残るかも知れません。出ていったとしてもまた帰ってくるかも知れません。帰ってこなくても自分が移り住んだ地域でふるさとの良さを伝え、広める人財になっていきます。そうして、ふるさとや自分が住む地域で、地域のために貢献し、私たちと同じ親の立場となって、次の世代を育てていきます。私たちは、自分たちの子どもが、将来、その子どもや地域を大切に育てていく存在となることまで想定してPTA活動を行わなければなりません」。本校が目指す将来の子どもの姿として、私たちはこのようなビジョンを共有して取組を進めてきました。

「ふるさとの新たな魅力を創出する」とは、今在るふるさとを創造するだけでなく、地域社会を担う力を身に付けた子どもたちが将来出会うであろうふるさとを創造することをも意味します。そして、本研究を通して、私たちが目指しているものは、「ふるさとの新たな魅力を創出する」我が小野中を巣立っていく子どもたちそのものである、ということに思い至ることができました。

本発表に当たり、御支援、御指導くださった長崎県教育委員会、諫早市教育委員会をはじめ、諫早市の諸機関・団体、事業所、そしてふるさと小野の保護者・地域の皆様に感謝申し上げます、御挨拶といたします。

令和4年12月16日

目 次

- 研究概要（基調提案）・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 「総合的な学習の時間」における各学年の活動の様子・・・・ P 5
- 小野中っ子が伸ばす資質・能力「ルーブリック表」・・・・ P 8
- 令和 4 年度全教育活動における資質・能力のアンケート結果・・ P 9
- 令和 4 年度全教育活動における資質・能力のアンケート分析・・ P 1 2
- 「地区生徒会」の設立と地域貢献活動・・・・・・・・ P 1 4
- 研究に関連する取組と活動・・・・・・・・ P 1 7

研究概要（基調提案）

1 研究の柱

- (1) 地域学習を通じたキャリア教育の充実と、育成する資質・能力の設定。
- (2) 各学年の系統性を持った地域学習の設定。
- (3) 地域の「ひと・もの・こと」の活用を通じた地域学習の実施。

2 研究主題

『ふるさと「小野」を愛し、誇りに思い、新たな魅力を創出する生徒の育成』
～持続可能な校区の未来を地域とともに考える探究活動～

3 課題設定の理由

小野地区には、これまで地域を支えてきた方々が多いが、新しく他地域から転居してきた方々も多くなり、その分、地域住民同士のつながりも希薄化してきている。さらに、新型コロナウイルス感染拡大の影響で地域行事はほとんどが中止となり、今後「助け合っていく地域」でなくなっていくことが心配される。本研究を通して、生徒が地域と繋がる場面を設定し、地域の方の地域を愛する思いに触れながら、ふるさとを愛し、誇りに思い、将来の地域社会を担っていく力を身に付けることができるよう、各学年の系統立てた地域学習を設定した。

4 研究の仮説

- (1) 学校・地域の適切な実態把握をもとに、キャリア教育で育成する4つの能力から、小野中で育成する資質・能力を明確にし、教科等横断的に主体的で深い学びに取り組むことで、学びに向かう力を高めることができるであろう。
- (2) 1年「学び」、2年「探究」、3年「発信」と系統性を持った地域学習を設定するとともに、講演や意見交換を取り入れた発表会等を通して、志の高い地域の方々との出会いや対話を行うことにより、地域を愛し、誇りに思う心情及び自己肯定感を育むことができるであろう。
- (3) 計画的な地区生徒会活動の実施により、地域の変化や課題を把握し、具体的な貢献の在り方を模索し実践する力を育むことができるであろう。

5 研究のポイント

キャリア教育で育成を目指す資質・能力を基に、本校生徒の課題を挙げ、本研究で育成する資質・能力を設定する。

ア：本研究（キャリア教育）で育成を目指す資質・能力

学習指導要領 3つの柱	小野中で育成する 資質・能力	キャリア教育で育成を目指す小野中の 基礎的・汎用的能力
知識及び技能	ふるさと『小野』を理解し、よりよくする力 <u><活用する人></u>	A 地域の良さや課題を正しく理解し、活用する力。
思考力・判断力 表現力等	課題解決のために、より良く変容させようとする力 <u><探究する人></u>	B 「何のため」という目的を把握し、積極的に探究していく力。 C 取り組んできたことを客観的に振り返り、修正する力。 D 必要な情報を収集・整理・分析し、相手や目的に応じてわかりやすく表現し、伝える力。
学びに向かう力 人間性等	課題解決のために、工夫しながら粘り強く取り組む力 <u><粘り強く 取り組む人></u>	E 最後まであきらめずに根気強く取り組み、積み重ねていく力。 F 異なる意見や考えを受け入れて尊重し、周囲と協力しながら取り組もうとする力。
	ふるさと『小野』を愛し、誇りに思い、新たな魅力を創出して貢献しようとする態度 <u><貢献できる人></u>	G 地域の良さや課題を把握し、課題に対して自分ができるか考え、進んで実行しようとする力。 H 自分の個性や適性を理解し、課題を通して自己実現しようとする力。

イ：生徒の資質・能力と関連付けたアンケート項目

※令和4年度は、令和3年度の基礎的・汎用的能力の数値が低い項目を意識させて向上を図る。

令和4年度、特に身につけさせたい能力

○課題対応能力

原因を明らかにし、方法を考え、改善に向かう力

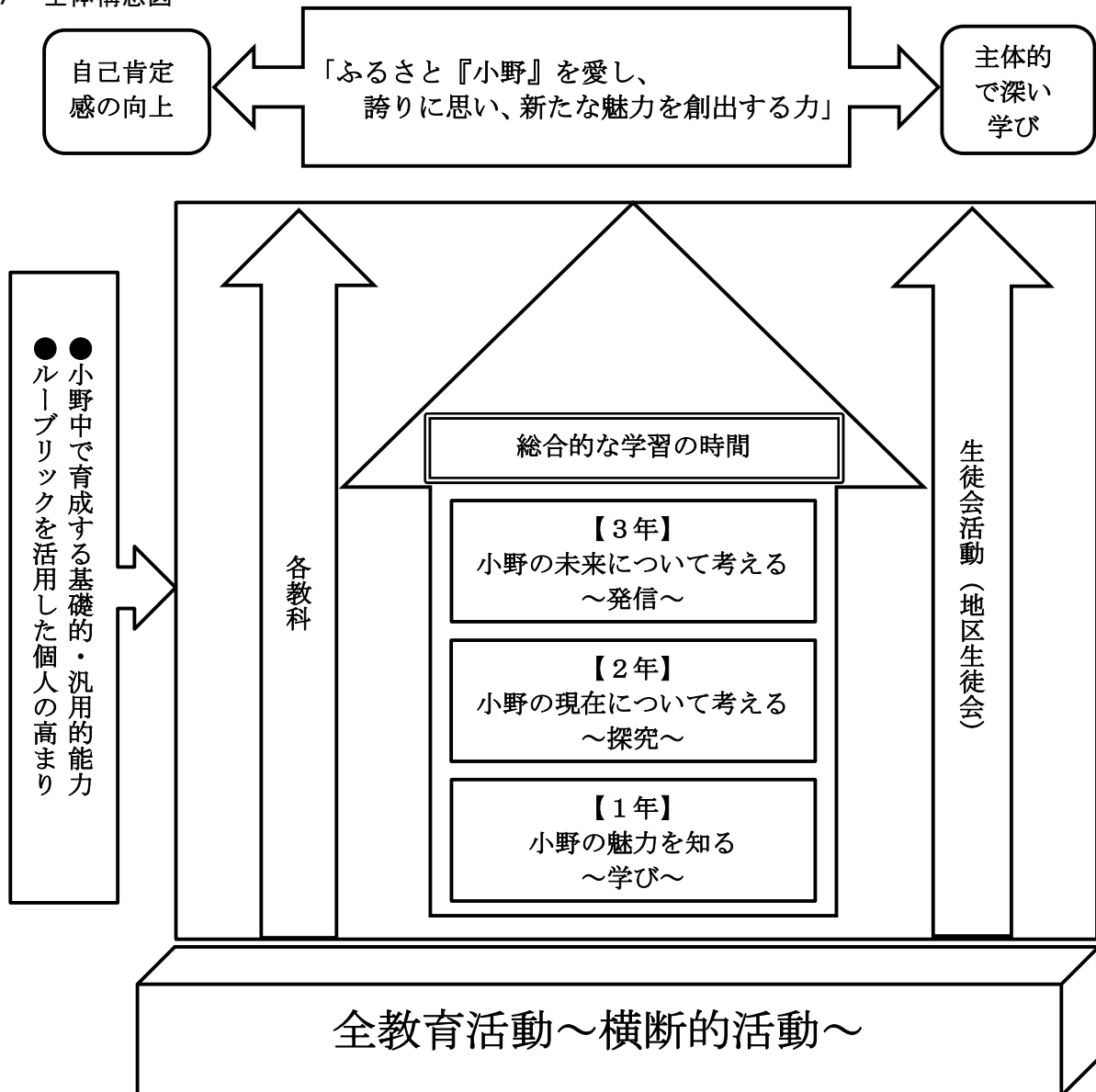
※令和3年度の検証を踏まえ、生徒が自己分析をしやすいようにアンケートの文言を変え、キャリア・パスポートとの関連を考え設問「11」「12」を追加した。

アンケート項目	基となる 基礎的・汎用的能力
1：あなたは、総合的な学習の時間を通して、ふるさと「小野」の地域の特色（良さや課題）を理解することができましたか。	A地域の良さや課題を正しく理解し、活用する力。
2：あなたは、学習や活動をする際に、将来のつながりを考えるなどして「何のため」に行うのかという目的を持って取り組むことができましたか。	B「何のため」という目的を把握し、積極的に探究していく力。
3：あなたは、学習や活動がうまく進まない時に、次に同じような問題が起こらないように、原因を考えることができましたか。	C取り組んできたことを客観的に振り返り、修正する力。
4：あなたは、学習や活動がうまく進まない時に自分で解決していくことができましたか。	
5：あなたは、様々な情報の中から自分が必要なものを探すことができましたか。	D取り組んできたことを客観的に振り返り、修正する力。
6：あなたは、必要な情報を相手や目的に合わせて、その内容をきちんと伝えることができましたか。	
7：あなたは、難しいと思うことでも最後まで粘り強く努力できましたか。	E最後まであきらめずに根気強く取り組み、積み重ねていく力。
8：あなたは、相手の気持ちや考えを大切にして、周囲と努力して物事に取り組むことができましたか。	F異なる意見や考えを受け入れて尊重し、周囲と協力しながら取り組もうとする力。
9：あなたは、ふるさと「小野」の地域の特色（良さや課題）を考えて発信し、今自分ができていることを考えて行動することができましたか。	G地域の良さや課題を把握し、課題に対して自分に何ができるか考え、進んで実行しようとする力。
10：あなたは、物事に取り組む際に、自分の長所や短所、得意・不得意などが把握できましたか。	H自分の個性や適性を理解し、課題を通して自己実現しようとする力。
11：あなたは、学習や活動の中で、見通しを持って計画的に進めることができましたか。	
12：あなたは、将来の目標に向かって、その実現のために勉強や生活の仕方を工夫するなどして、努力できましたか。	

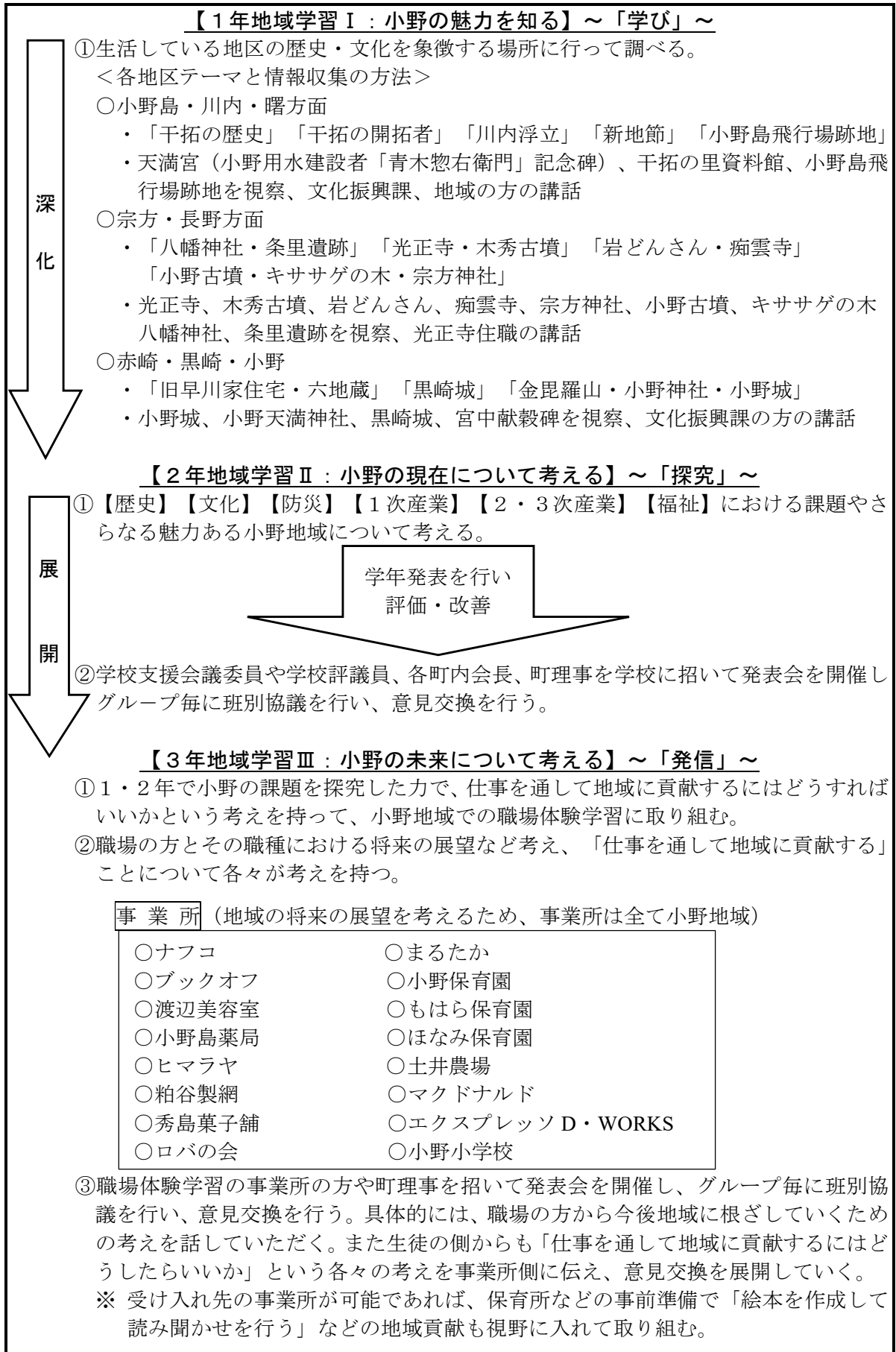
6 研究組織

<p>研究推進委員会【校長・教頭・教務主任・研究主任・学年主任・学年研究担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究の全体的な検討、総括 ○地域や関係機関との連携（講師依頼、町内会長等との連携・地区生徒会における連携等） ○研究紀要の資料作成検討 <p>※各学年担当【1年：堤、2年：平川、3年：上野・山本】</p> <p>※レイアウトやページ振り分けなどの発案。基本的に研究紀要作成は、上記担当を中心に全職員で取り組む。</p>	
<p>評価研修部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究に関する調査等の実施・集計 ○研究の事前、事後における変容の分析 ○PDCA サイクルに基づく評価・改善 <p>※「小野中で目指す資質・能力」の見直しや、事前・事後でアンケートを取り検証する。</p>	<p>教科・学級連携部</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャリア教育の視点による教科等横断的な取組の推進（別紙参照） ○キャリア・パスポート及び生徒アンケートにおける内容・文言の見直し ○ルーブリックの作成
<p>【部員】 堤・中谷・田川・中村・山本・麻生・小川</p>	<p>【部員】 平川・上野・廣瀬・柳谷・教頭・山中</p>

7 全体構想図



8 目指す資質・能力を育成するための「系統性」を持った地域学習の実施



「総合的な学習の時間」における各学年の活動の様子

1. 1年：地域学習Ⅰ「小野の魅力を知る～現地調査から～」(学び)

○活動内容

小野中学校で育成する資質・能力である「ふるさと『小野』の地域の特徴（良さや課題）を理解する」力と「ふるさと『小野』の地域の特徴（良さや課題）を考えて発信し、今自分ができることを考えて行動する」力を育むために、「課題設定」と「情報収集」を多角的・多面的に充実させる取組を考えた。その取組が生徒の探究心を深め、地域の特徴を理解し、地域のためにできることを考えて行動する生徒を育むと考えた。

具体的には、生徒一人一人が興味を示すテーマを幅広く受け入れ、その情報収集の方法を生徒と共に考えた。その中で令和3年度の遺跡や神社などの現地視察だけの情報収集から、視察する現地に様々な講師の方に来ていただくことを計画した。「新地節」のテーマは地元婦人会の川内節の指導者の方、「小野島飛行場跡地」のテーマは、地域の戦争体験者の方、「川内浮立」のテーマは市役所の文化振興課の方、光正寺のテーマは、住職の方、と現地視察だけであった昨年度の情報収集の仕方を様々な形で広げていった。また、昨年度は半日の野外学習で時間も限られて十分な情報収集ができなかったため、今年度は、公用バスを借りることでたくさんの現地視察を行い、情報収集の範囲を広げた。

○活動の様子（「①②・・・」の数字は、学習の流れの順番を示す）

<p>①諫早市美術・歴史館の方による導入</p> 	<p>②地域の方からの情報収集（新地節）</p> 	<p>②現地視察による情報収集（黒崎城）</p> 
<p>②住職からの情報収集（光正寺）</p> 	<p>②文化振興課からの情報収集（八幡神社）</p> 	<p>②文化振興課からの情報収集（川内浮立）</p> 
<p>③整理分析 （1人1枚の新聞作成） ※昨年度</p> 	<p>④発信 （個人による新聞作成）</p> 	<p>④発信 （スライドによる班の発表） ※昨年度</p> 

2. 2年：地域学習Ⅱ「小野の現在について考える～領域別研究から～」(探究)

○活動内容

小野中学校で育成する資質・能力である「ふるさと『小野』の地域の特色(良さや課題)を理解する」力と「ふるさと『小野』の地域の特色(良さや課題)を考えて発信し、今自分ができることを考えて行動する」力を育むために、学年を「歴史、防災、文化、福祉、第1次産業、第2・3次産業」の6班に分け、1年時の地域学習で得た基礎知識を更に深く調べ深化させていく取組を設定した。その取組が生徒の探究心を深め、地域の特色を理解し、地域のためにできることを考えて行動する生徒を育むと考えた。

具体的には、自分の班のテーマに基づいて生徒一人一人が興味を持つ内容について調べられるように課題を設定した。その後、現地調査や市美術・歴史館や地域婦人会、地元自治会、文化協会、JAや地元企業などに取材したり、講師としてお話を聞くなどしたりして多角的に情報収集を行い、調べた内容を次年度の職場体験学習や今後の地域貢献活動に生かしていけるように、「今後につながる活動」として意識して取り組んだ。

○活動の様子(「①②・・・」の数字は、学習の流れの順番を示す)

<p>①基本情報の習得(諫早市美術・歴史館から講師を招聘)</p> 	<p>①基本情報の習得(諫早市役所より講師を招いての地域協働参画の講話)※昨年度</p>  	<p>②実地調査(小野団地測量)</p> 
<p>②実地調査(小野城跡)</p> 	<p>②実地調査(宗方神社)</p> 	<p>②調理実習と試食会(地元婦人会の指導で郷土料理を調)</p>  
<p>②地域の方々への聞き取り調査(宗方神社・小野天満神社)</p>  	<p>③整理分析(紙芝居作り)</p> 	<p>③整理分析(調査内容分析)</p> 
<p>④発信(地域の方を招いての発表会※昨年度)</p> 	<p>⑤次年度の取組に向けての準備(発表会後の地区ごとの意見交換会)※昨年度</p>   	

3. 3年：地域学習Ⅲ「小野の未来について考える～職場体験学習から～」（発信）

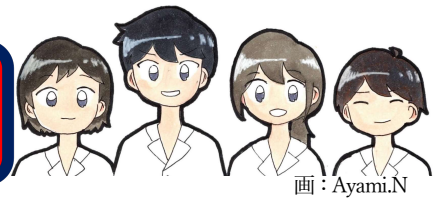
○活動内容

小野中学校で育成する資質・能力である「ふるさと『小野』を理解し、よりよくなる力」と「ふるさと『小野』を愛し、誇りに思い、新たな魅力を創出して貢献しようとする力」を育むために、職場体験で学んだことや事業所の方から聞いた小野地区への貢献や未来に関する話などをもとに、生徒自身が小野地区の未来を考えて、表現するという取組を行った。その取組により、生徒の探究心や郷土愛を深め、地域のために何ができるか自発的に考え行動する生徒を育成できると考えた。具体的には、1、2年次の地域学習で培った知識や技能などをもとに、小野地区にあるさまざまな事業所で職場体験を行った。その中で、事業所の方から小野地区の未来や小野地区に対する思いなどに関する講話をいただき、その展望や思いをふまえながら生徒なりに「ふるさと小野の未来を考え、自分たちがどのように貢献できるか」という課題について考えさせ、まずは事業所ごとにプレゼンテーションを行った。その後、事業所を3つの班（地元の事業所班・全国展開の事業所班・教育関係班）に分けて、その班ごとに「未来の小野地区」に自分たちがどのように貢献できるかについて考えて、話し合い、まとめることで生徒の願いや思いを可視化し、実際に発表する場を設けて、成果を地域に発信することを計画した。

○活動の様子（「①②・・・」の数字は、学習の流れの順番を示す）

<p>①職場体験学習による 情報収集（農場）</p> 	<p>①職場体験学習による 情報収集（ファストフード）</p> 	<p>①職場体験学習による 情報収集（保育園）</p> 
<p>②班ごとの整理分析 （スライド作成）</p> 	<p>②班ごとの整理分析 （スライド作成）</p> 	<p>②班ごとの整理分析 （スライド作成）</p> 
<p>③発信（学年内発表）</p> 	<p>③発信（学年内発表）</p> 	<p>③発信（学年内発表）</p> 

小野中っ子が伸ばす資質・能力 ルーズブック表



画：Ayami.N

「課題に対応する力」を高めよう！ (原因を明らかにし、方法を考え、改善していこうとする力)			
【基本】小野地域のいいところや課題点について知っている。			
	【地域への貢献】	【課題の探究】	【粘り強い姿勢】
	ふるさと「小野」を愛し、誇りに思い、新たな魅力を創出して地域に貢献しようとする。	課題を解決していくために、よりよく変容しようとする。	課題を解決するために、工夫しながら粘り強く取り組もうとする。
レベル1	周りの助けを得ながら、示された課題や目標に向かって考え、行動することができる。 一緒にできるかも…	周りの助けを得ながら、示された課題や目標に向かって考え、行動することができる。 	周りの助けを得ながら、示された課題や目標に向かって考え、行動することができる。 一緒に取り組んで解決法を考えようよ！
レベル2	小野地域の人々の思いを理解し、活動することができる。 地域の人達が小野を愛する思いがわかった！その思いを受けて活動しよう！	課題に対して、根拠のある自分なりの考えを持つことができる。 以前、あのやり方で失敗したから、今度はこうした方がいいかな？	自分の長所や短所を自覚し、目標に向かって行動しようとするすることができる。 自分はここが苦手だから、今度はこんな所に取り組んでみようか
レベル3	地域の活動での自分の役割を自覚して、意欲的に行動することができる。 私に出来ることはこれ！一生懸命頑張ろう！	意欲的に周りの人達と意見を交わしながら、自分の考えを深め、表現することができる。 こうしたら、もっといいんじゃない？	自分の目標に向かって、粘り強く積極的に行動することができる。 負けるもんか！頑張ろう！
レベル4	ふるさと「小野」を愛し、地域のためにどのように貢献すればよいかを考え、行動することができる。 小野は素晴らしい地域。地域の方に喜んでもらえるように貢献しよう！	自分で課題を見つけ、その解決に向けて周りの状況を考えて判断し、行動することができる。 ここがおかしいから、こうしたらいいよ！みんなはどう思う？	より高い自分の目標に向かって、向上心を持って粘り強く積極的に行動することができる。 かなり努力が必要だけど、今度はこんな工夫をして、ここまで目標を上げて頑張ろう！

個人の高まり ☆ 粘り強く・探究し・貢献する

令和4年度全教育活動における資質・能力のアンケート結果

< 事前(6月) → 中間(10月) >

1年生

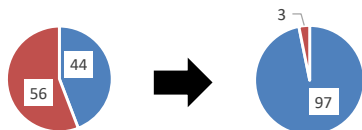
※肯定的評価(4段階評価A・B)の百分率(%)【A:良くできた B:できた C:できなかった D:全くできなかった】

※設問「3」「4」は令和3年度に数値の低かった項目で、令和4年度に「特に身に付けさせたい能力」として育成を図った。

※令和4年度は、令和3年度の検証を踏まえ、生徒が自己分析をしやすくアンケートの文言を変えた。またキャリア・パスポートとの関連を考え、設問「11」「12」を追加した。

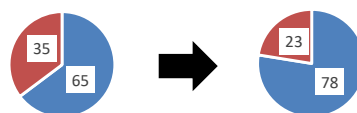
※四捨五入の結果、合計が100%にならない場合がある。

1: 小野の地域の良さや課題を理解する。



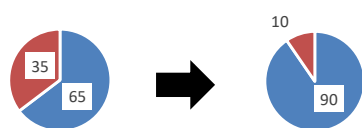
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

2: 学習や活動をする際に目的を持って取り組む。



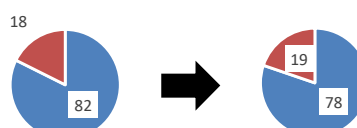
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

3: 学習や活動がうまく進まない時、原因を考えることができる。



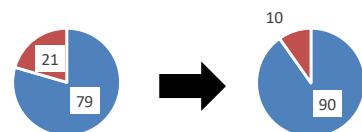
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

4: 学習などうまく進まない時に自分で解決することができる。



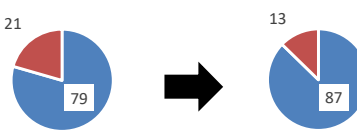
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

5: 情報の中から必要なものを探ることができる。



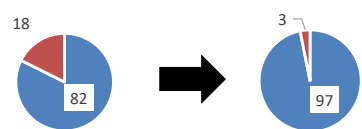
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

6: 相手や目的に合わせて必要な情報を伝えることができる。



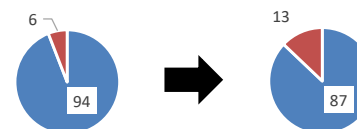
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

7: 難しいと思うことでも、最後まで粘り強く努力できる。



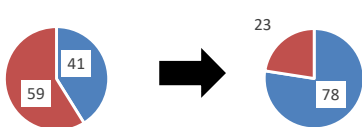
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

8: 相手の気持ちを大切に周囲と協力して取り組む。



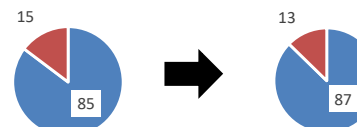
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

9: 小野の地域の良さや課題を考えて発信し考えて行動できる。



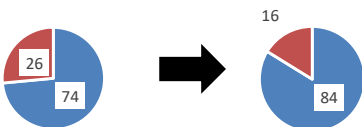
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

10: 物事に取り組む際自分の長所や短所などが把握できる。



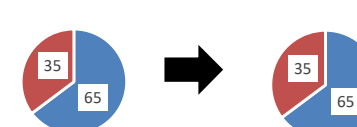
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

11: 学習や活動の中で、計画的に進めることができる。



■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

12: 目標に向かって勉強や生活を工夫して努力ができる。



■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

令和4年度全教育活動における資質・能力のアンケート結果

< 事前(6月) → 中間(10月) >

2年生

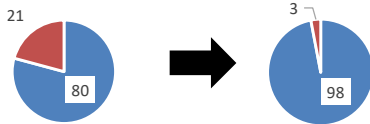
※肯定的評価(4段階評価A・B)の百分率(%)【A:良くてきた B:できた C:できなかった D:全くできなかった】

※設問「3」「4」は令和3年度に数値の低かった項目で、令和4年度に「特に身に付けさせたい能力」として育成を図った。

※令和4年度は、令和3年度の検証を踏まえ、生徒が自己分析をしやすくアンケートの文言を変えた。またキャリア・パスポートとの関連を考え、設問「11」「12」を追加した。

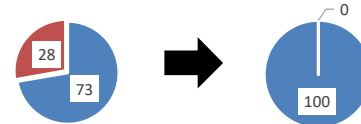
※四捨五入の結果、合計が100%にならない場合がある。

1: 小野の地域の良さや課題を理解する。



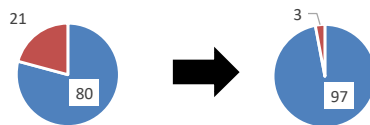
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

2: 学習や活動をする際に目的を持って取り組む。



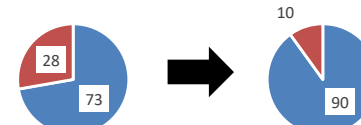
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

3: 学習や活動がうまく進まない時、原因を考えることができる。



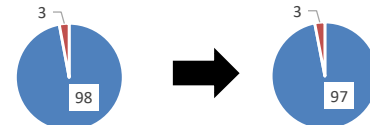
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

4: 学習などうまく進まない時に自分で解決することができる。



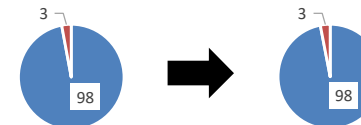
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

5: 情報の中から必要なものを探ることができる。



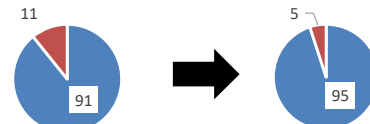
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

6: 相手や目的に合わせて必要な情報を伝えることができる。



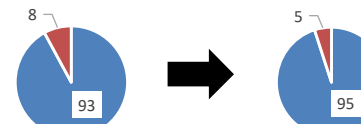
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

7: 難しいと思うことでも、最後まで粘り強く努力できる。



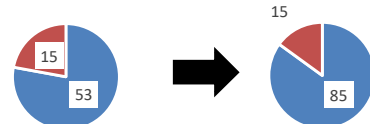
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

8: 相手の気持ちを大切に周囲と協力して取り組む。



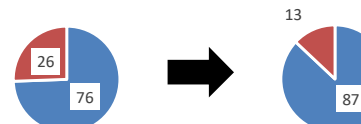
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

9: 小野の地域の良さや課題を考えて発信し考えて行動できる。



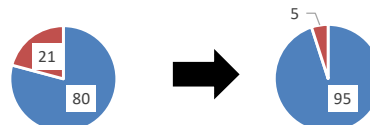
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

10: 物事に取り組む際自分の長所や短所などが把握できる。



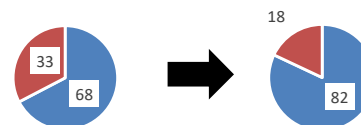
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

11: 学習や活動の中で、計画的に進めることができる。



■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

12: 目標に向かって勉強や生活を工夫して努力ができる。



■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

令和4年度全教育活動における資質・能力のアンケート結果

< 事前(6月) → 中間(10月) >

3年生

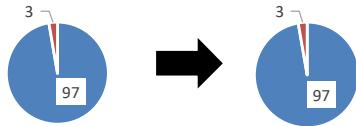
※肯定的評価(4段階評価A・B)の百分率(%)【A:良くできた B:できた C:できなかった D:全くできなかった】

※設問「3」「4」は令和3年度に数値の低かった項目で、令和4年度に「特に身に付けさせたい能力」として育成を図った。

※令和4年度は、令和3年度の検証を踏まえ、生徒が自己分析をしやすくアンケートの文言を変えた。またキャリア・パスポートとの関連を考え、設問「11」「12」を追加した。

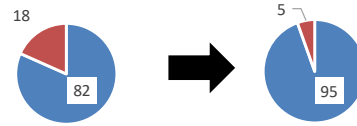
※四捨五入の結果、合計が100%にならない場合がある。

1: 小野の地域の良さや課題を理解する。



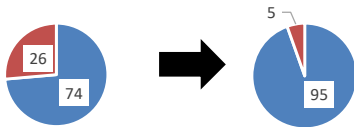
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

2: 学習や活動をする際に目的を持って取り組む。



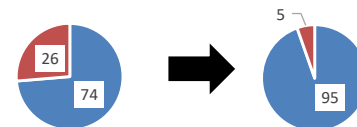
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

3: 学習や活動がうまく進まない時、原因を考えることができる。



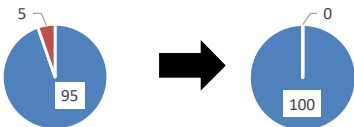
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

4: 学習などうまく進まない時に自分で解決することができる。



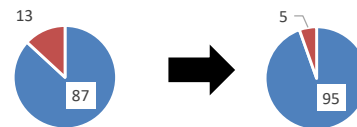
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

5: 情報の中から必要なものを探ることができる。



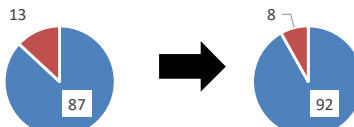
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

6: 相手や目的に合わせて必要な情報を伝えることができる。



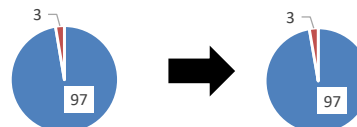
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

7: 難しいと思うことでも、最後まで粘り強く努力できる。



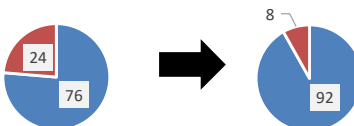
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

8: 相手の気持ちを大切に周囲と協力して取り組む。



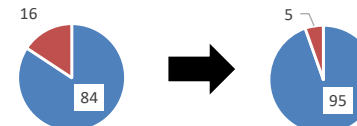
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

9: 小野の地域の良さや課題を考えて発信し考えて行動できる。



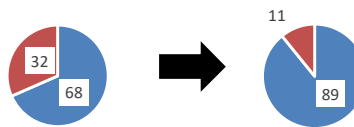
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

10: 物事に取り組む際自分の長所や短所などが把握できる。



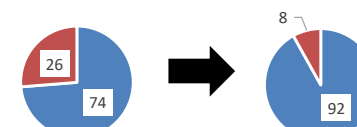
■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

11: 学習や活動の中で、計画的に進めることができる。



■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

12: 目標に向かって勉強や生活を工夫して努力ができる。



■ 肯定的評価 ■ 否定的評価

令和4年度全教育活動における資質・能力のアンケート分析

事前評価6月→中間評価10月

評価研究部

第1学年 10月における中間アンケート結果分析

- 設問1「あなたは、総合の時間を通して、ふるさと『小野』の地域の特色（良さや課題）を理解しようとしたか。」について、生徒の肯定的評価（4段階評価A・B）は、事前評価44%から中間評価97%に伸びた。設問9「あなたは、ふるさと『小野』の地域の特色（良さや課題）について、今自分ができることを考えて行動することができましたか。」について、生徒の肯定的評価（4段階評価A・B）は、事前評価41%から中間評価77%に伸びた。

今年度の地域学習では、生徒一人一人が興味を示すテーマを幅広く受け入れた。それによって情報収集の方法も拡大し、遺跡や神社の現地視察のほか、地域の方や市役所の文化振興課、住職の方を講師として招いた。「課題設定」と「情報収集」を多角的に拡大することで、生徒の探究心が高まり、この結果につながったと考えられる。

- 課題対応能力である設問3「あなたは、学習や活動がうまく進まない時に、次に同じような問題が起こらないように、その原因を考えることができましたか」について、生徒の肯定的評価（4段階評価A・B）は事前評価64%から中間評価91%に伸びた。設問4「あなたは、学習や活動がうまくいかない時に自分で解決していくことができましたか。」について、生徒の肯定的評価（4段階評価A・B）は、事前評価81%から中間評価78%に減っている。

設問3・4の結果から、1年生後半になり学習や活動が進んでうまくいかない時に、その原因と解決策を考える力はあるにもかかわらず、それを活用しきれずにふさぎこんだりあきらめたりする生徒が2~3人いたと考えられる。今後は、個々のアンケート結果を確実に把握して、学年職員と共通理解を図りながら、課題に対してうまく進まない時の原因を一緒に考えたりするなど、丁寧な個別支援を図る。

第2学年 10月における中間アンケート結果分析

- すべての設問について肯定的評価の向上が見られた。特に設問1・2・9・11については15%以上という高い向上が見られた。また、すべての設問について「D」評価をつけた者が1名もいなかった。

- 当初の学年の課題として挙げていた設問2・11・12については、それぞれ27%、15%、14%と他の設問よりも高い向上が見られる。これは地域学習に具体的に取り組み、生徒の活動場面が飛躍的に増加したことが要因と考えられる。生徒が個々のテーマについて何を調べたいかを考えるように手立てを講じ、実地調査や聞き取り調査等に取り組み、新たな知識を得たことによって学習意欲の喚起が図られた成果が出ていると思われる。反面、設問7（粘り強く取り組む）・8（相手の考えを尊重しつつ協力する）・10（自分の長所短所を把握する）については10%以下と他設問よりも伸びが低い。これは、設問2・11・12の「ふるさとを理解する」「ふるさとに貢献する」「何のために学習するのかを理解する」という点が実際の活動を通じて体現できたので向上した反面、実際の活動の場が増えたことで、粘り強く取り組んだり、周囲と協力したりする場面での反省点を多く感じ、評価が伸びなかったものと思われる。このように感じている生徒に対しては、活動の場面での声掛けや、反省点を振り返らせて次時の活動での目標を具体的に立てさせる等の手立てを行った。

- 生徒個人の変容を見ると、特に自己評価が上がった設問は、設問1「地域の良さを理解する」（39名中26名）、設問9「地域貢献について考える」（同21名）、設問11「見通しを立てて計画的に取り組む」（同20名）であった。この結果は、実際に地域学習に取り組み始めたことによる成果であると思われる。逆に自己評価が下がった者が多かった設問は、設問10「自分の長所短所を把握する」（同5名）、設問8「相手を尊重し協力する」（同4名）であった。この原因については、前述と同様であると思われる。また、設問2「学習や活動を何のために行うのか目的を持って取り組む」については自己評価が下がった生徒はいなかった。地域学習を通して、「目的意識、イコール今取り組んでいることのゴール」を意識して取り組んだ成果と思われる。

第3学年 10月における中間アンケート結果分析

- 設問8の「あなたは、相手の気持ちや考えを大切にしながら、周囲と協力して物事に取り組むことができましたか」に関してはもともと高い結果が出ていたということもあり、肯定的評価はいずれも97%と変化は見られなかった。しかし、「B：できた」と答えた生徒の割合が12%減少し、「A：良くできた」と答えた生徒の割合が12%増加したという変化が見られた。なお、「C：できなかった」「D：全くできなかった」と答えた生徒の割合に変化はない。このことから、様々な活動場面を経験していく中で、より高度な協力体制を築き上げることができているのではないかと、また、「相手の気持ちや考えを大切にし～」という文言が入っている点から、道徳性の涵養が見られるのではないかと考えられる。これからも班活動など生徒が中心となって活動していく場を設定し、学びを積み重ねることで、より成熟した集団を目指したい。
- 設問9「あなたはふるさと小野の地域の特色（良さや課題）について、今自分ができていることを考えて行動することができましたか」に関して、事前アンケートの時点では「D：全くできなかった」と答えた生徒が3%いたが、中間では0%であった。「C：できなかった」と答えた生徒は8%まで減少し、およそ9割の生徒が肯定的評価（4段階評価A・B）と答えている。このことから、地域学習や地区生徒会などの活動を通して、ほとんどの生徒が自分たちの住む小野のためを思い、行動することで、地域に貢献できたという手応えをもつことができたと考えられる。ただ、減少はしたものの、C以下の生徒が1割ほどいるのも現状であるため、今後の発表に向けた活動で工夫していく。また、4段階平均で見ると、0.5pt増加しており、全設問の中でも特に大きな変化が見られた。この変化から、自分の能力と課題の現状を見ながら自分のできていることを進めていく自ら学習を調整しようとする力が向上したと考えられる。
- 事前アンケートで一番低い結果が出た設問11「あなたは、学習や活動の中で、見通しをもって計画的に進めることができましたか」では、0.4pt増加し、内訳も「C：できなかった」と答えた生徒が大幅に減少し、「A：良くできた」と答えた生徒が大幅に増加した。これは事前アンケートでCと答えた生徒がA及びBへと移行したと想定される。この変化は、進路選択の時期に差しかかったこともあり、必要性を実感した生徒が増えたという側面も考えられる。今後は、先を見通す意義や方法などに関して、授業内外を問わず指導をする。

「地区生徒会」の設立と地域貢献活動

1. 設立の背景

新型コロナウイルス感染症拡大により、学校を取り巻く地域の状況は大きく変わった。諫早市内でも地域行事が盛んに行われていた小野地区では、この3年間、地域行事がほとんど中止となり、これに参画していた中学生が地域に関わることもほとんどなくなった。また、近年、小野中学校区は新しいアパートや商業施設が増加するなど都市化が進んでおり、数年後には校区内に九州最大規模の大型商業施設も建設されることが決まっていることもあり、これまでの地域の強いつながりが急速に薄れていくことが心配される。

このような状況の中で、自分たちが暮らす地域について話し合ったり協力し合ったりするための組織や仕組みがあれば、中学生が地域の一人として地域のつながりを守り、主体的に課題解決に向けて具体的に行動できるのではないかという思いがあった。

また一方で、本校の生徒会は、長年の空き缶回収ボランティア活動を継続して行っていることに対して様々な表彰を受けており、学校評価アンケートでの教職員や生徒の評価は高いのに比較して、保護者の評価はそれほど高くない。もっと保護者や地域に届けることができる、中学生の姿が見えるボランティア活動はできないかとも考えていた。

昨年度、生徒総会前に生徒会規約を見直していると、その第3章第7節に今は存在しない「地区生徒会」の条項が残されていることに気付いた。調べてみると、平成14年までは存在していた地区生徒会は、平成15年に消滅していた。地区生徒会という自分の住んでいる地域の中学生ごとのまとまりがあれば、部活や塾で地域から離れてしまう中学生の地域での活動の基盤が確保できる。これを拠点に地域とつながり、地域に学んだり地域貢献したりすることができるのではないか。こうしたことから、生徒会役員で地区生徒会の是非について考え、検討を重ねた結果、「地区生徒会」を復活させることが決まった。

2. 「地区生徒会設立準備会」での協議

令和3年9月16日から毎週木曜日の昼休み、生徒会長・副会長2名・執行委員2名と校長・生徒会担当教師により、都合7回に及ぶ設立準備会を開催し、協議を行った。内容は、①設立計画の作成、②各地区名簿（リーダー案含む）の作成、③生徒会規約の改正案作成、④臨時生徒総会開催案及び提案内容の検討、⑤地区リーダー会開催案の検討である。

特に次の3点を検討、作成し、決定した。地区生徒会設立の趣旨説明文を作成すること。小野中学校区にある9自治会単位の地区区分を、生徒数の偏りや今後の増減を考え、6つの地区で発足させる案を作成し、生徒会規約の改正を提案すること。臨時生徒総会を令和3年10月28日に開催すること及び役割分担を決めること。このことにより、生徒会役員は、小野中のリーダーとして自分たちの手で地域に関わり、地域貢献をする組織づくりを行い、今後の後輩たちに受け継いでいくのだという意志を強くした。

第7回（11月22日）、臨時生徒総会后、今後の流れについて役員全員で共通理解をしたことによってその役割を終え、設立準備会は解散した。



3. 臨時生徒総会の開催（生徒会規約の改正）

10月28日、臨時生徒総会を開催し、生徒会長より設立の趣旨を説明した後、生徒会規約の改正案を提案し、満場一致で設立を可決した。

4. 地区リーダー会の開催

11月4日、臨時生徒総会で地区生徒会の設立が可決されたのち、第1回の設立会が円滑に実施できるように、各地区で推薦された仮の地区リーダーを集め、地区リーダー会を開催した。生徒会役員から設立会の協議事項や内容について説明し、質疑応答して共通理解を図った。各地区リーダーは、地域貢献の推進者としての意識を高めた。

5. 地区生徒会の設立（第1回地区生徒会）

11月26日、第1回地区生徒会として、設立会を行った。会では、正式に地区リーダー・副リーダーを選出した後、連絡網を作成し、次のことについて協議した。①地区の年間行事、②地区の課題、③課題の解決策、④地区への提案。この話し合いに基づいて、今後、中学生として地域に貢献する活動は何ができるかを考えるきっかけづくりとした。



6. 活動計画の作成（第2・3・4回会議）及び地区リーダー会

〔第2回〕（令和4年3月11日）

第1回で話し合った地域課題の解決のために、令和4年度から実施する活動について話し合い、決定した活動について大まかな計画を立てた。各地区の3年生は卒業するため、地域貢献に対する3年生の思いや願いを後輩に託す会となった。



〔第3回〕（5月6日）

令和4年度最初の会であり、新しいメンバーで、実際に活動を始める発起会となった。新しい地区リーダー・副リーダーを選出し、連絡網を作成した。前年度第2回で協議した中から今年度行う活動を決定し、実施計画案を立案した。



これから地区生徒会の会議を行う際、毎回、事前に地区リーダー会を行い、会議の進行と内容について確認したのち本会議に臨む体制を整えた。また、新年度から、生徒会執行委員を地区生徒会全般に関わる事務局担当として運営に当たる体制を採ることとした。

〔第4回〕（7月12日）

この会では、これまでの協議と取組の進捗状況を確認し、夏休みを中心とした具体的な活動内容（活動日、時間、それぞれの役割、準備物、予算の使い方など）を決定した。また、お互いの注意事項として、熱中症対策・コロナ対策・安全対策についても話し合った。

7. 地域貢献活動の実施

各地区で立てた計画に基づいて、夏休みを中心に活動を開始した。

地区	活動日	場所	活動内容
宗方	7/17(日)	宗方公民館 小野小学校周辺	○町内2か所に分かれての清掃活動
長野	7/24(日)	町内全域	○町内5か所に分かれての清掃活動
小野島	7/26(火), 8/1(月) 8/17(水), 9/21(水)	小野島公民館 危険区域・排水機場	○ハザードマップづくり (講話、現地調査、マップ作成)
川内	7/31(日), 9/11(日) 毎月日曜日	町内全域 川内・曙公民館	○用水路を含む清掃活動 ○ベルマーク収集
赤崎・黒崎	8/5(金)	地蔵堂・記念碑	○地蔵堂・記念碑の清掃
小野	8/7(日) 10月中掲示	町内2か所 町内掲示板	○市民大清掃に合わせて側溝を含む清掃活動 ○町内掲示板での中学校情報の発信



<宗方地区(清掃終了)>



<長野地区(現地集合)>



<小野島地区(現地調査)>



<川内地区(ベルマーク集め)>



<赤崎・黒崎地区(地蔵堂清掃)>



<小野地区(市民大清掃)>

生徒は、自分たちの住む地区の課題とその解決に向けて何ができるかを考え、計画を立てて活動に臨んだ。活動に際しては、保護者・地域の方々に活動の目的、意義、内容を知ってもらうため、まず地区リーダーが育友会（PTA）の各地区担当である町理事に活動の説明を行った。その後、各地区の自治会長・町内会長宅を訪問し、活動についての説明をし、協力を依頼した。生徒にとっては、町理事は保護者であるので容易に説明に行くことができたが、自治会長・町内会長宅は敷居が高く、当初は二の足を踏んでなかなか訪問することができなかった。しかし、自治会長・町内会長が中学生の活動を知り、理解して初めて地域に認知されるようになること、こうした行動を行うことで地域全体の理解や協力が得られること、このハードルを越えてこそ中学生の地域貢献が本物になって行くことなどを話し、地区リーダーとなった生徒の勇気や前向きな態度を褒めるなどして教職員が励まし、背中を押すことで地区リーダーとしての責任を果たすことができた。また、活動する中で地域の方々からねぎらいや応援の言葉をかけていただいたことで、生徒それぞれが1つ1つ小さな達成感を味わった。

[第5回]（9月7日）

夏の活動の反省を行い、共通理解を図った。生徒は、今回の活動を通して新たに分かったこと、足りなかった点を、次の、より充実した活動への足掛かりとすることができた。この話し合いを基に、冬休みを中心とした年内の次の取組や、次年度の活動（今年度の活動の継続、または新たな取組）についての構想を練った。

8. 今後に向けて

今年度、生徒は、先輩とともに地区生徒会を設立し、活動を託された最初の年として、懸命に活動し、実践に学ぶ姿勢で取り組んだ。初めての活動で学んだこと、修正していくべき点を十分把握・共通理解して、計画的に粘り強く、次年度の活動に臨むことにしている。

研究に関連する取組と活動

1. 「学校運営協議会」を設置して「コミュニティ・スクール」へ

長崎県では、平成15年・16年の長崎・佐世保の少年事件をきっかけに、学校と家庭と地域が一体となって子どもたちを育成していこうという教育理念のもと、小・中学校に「学校支援会議」の設置が推進され、県内全小・中学校に設置されている。学校支援会議の定義は、「一学区の教職員・保護者・地域住民の代表者が、地域で育む子ども像や目指す地域像を共有し、その実現に向けて三者が役割を果たしながら連携・協働するための仕組み」である。立場の違う者同士が協働するためには、まず「目標」の共有が必要であり、それはとりもなおさず「課題」の共有である。そして、共有した課題を解決するためにそれぞれの立場で実践するための組織的基盤が必要である。そのために、今在る学校支援会議を、法的根拠を持った、学校・家庭・地域の代表者が権利と責任を持って学校経営に参画する「学校運営協議会」に移行する必要があるという考えのもと、本校及び本校の学校支援会議では、昨年度から学校運営協議会及びこれを設置した学校である「コミュニティ・スクール」の研修を行い、理解を深めた。そして、「地域とともにある学校づくり」を目指したこれまでの研究とその成果を継続していくため、今年度内にコミュニティ・スクールとすることを提案し、了承された。次回の学校支援会議では、学校運営協議会の会則案及び会員案について協議し、令和5年3月には、正式に「小野中学校運営協議会」が発足する運びとなっている。令和5年度以降、学校運営協議会において、保護者・地域の方々の理解と協力を得ながら、本研究成果の継続を図っていこうと考えている。

2. 読書活動による地域貢献

昨年度、本校では、3年生有志による同好会「読書クラブ」を任意で行ってきた。その中で、絵本の読み聞かせをすることが増え、誰か聞く人を前にしてやってみようという提案があり、小野公民館の社会教育指導員と調整した結果、地域で定期的に行う高齢者学級の一環として12月に行われる発表会（公民館祭）で、お年寄りに読み聞かせをすることとなった。これにより、読書クラブの生徒たちにとっては自分に自信をつける絶好の機会となり、公民館や地域の方々には中学生の頑張りを知ってもらい、中学生の地域貢献として受け入れてもらうことをねらいとしている。この取組は、令和3年12月14日に実現し、お年寄り約50名の前で読み聞かせを行った。



今年度、読書クラブは活動していないが、学校図書館の運営を担当する生徒会学習委員会ですべてを受け継ぎ、12月13日の公民館祭で読み聞かせを行うことになっている（11月現在）。読書活動による生徒の地域貢献活動は、これまでの地域学習や生徒会のボランティア活動、新たに始めた地区生徒会活動だけでなく、別の角度から地域貢献を行うことができることを示した。今後、生徒のアイデアにより、様々な活動が展開されて行くことが期待される。

3. 地域防災に向けた取組

近年、集中豪雨などの異常気象による災害が毎年のように起こっている。小野地区は古くから水害に悩まされてきた地域である。潮受け堤防の建設によって以前のような被害は少なくなったが、現在でも毎年のように大雨による道路の水没や土砂災害が心配されている。昨年地区生徒会で小野島地区からハザード・マップ作成が提案された。地域での災害を憂慮してのことである。小野地区も山間部に作られた溜池が決壊した場合に大きな被害が出ることから、2年生の防災研究班がこれを地域学習のテーマとした。災害と防災は、中学校にとっても地域にとっても共通する地域課題である。

昨年、諫早市危機管理課の協力を得て、全校生徒対象に防災講座を実施した。「防災に必要なものは何か？」を課題として、ワールド・カフェの方法を用い、6地区に分かれて協議した。話し合いを進めるうちに、防災に必要なものは「物」だけではなく、「地域のつながり」である

ことが分かり、生徒の間では地域で防災意識を高めることの大切さが共有された。このことが、今年度、小野島地区のハザード・マップ作成や2年生の防災研究班の活動につながった。次年度以降、「地域防災」を地域学習や地区生徒会、学校運営協議会のテーマとして取り組んで行こうと考えている。

【令和3年度】



＜防災講座＞「防災に必要なものは？」「保護者・地域の方との意見交換」

【令和4年度】



＜小野島地区生徒会＞「ハザード・マップづくり」「危機管理課の方の講評」



＜2年生「防災研究班」＞「小野地区道幅の測量」「防災地図の作成」

研究同人

令和3年度

校長	矢川 豊彦
教頭	伊東 郁記
教諭	堤 淳一
教諭	田川 尚子
教諭	川内 さおり
教諭	田口 誠吾
教諭	平川 博史
教諭	脇山 郁美
教諭	中村 一史
教諭	柳谷 祐貴子
教諭	山本 愛
講師	麻生 なつ紀
講師	原田 航大
非常勤講師	大木 豊
非常勤講師	吉井 順子
非常勤講師	松本 茂
養護教諭	田崎 由梨
養護助教諭	山中 りな
事務職員	山内 卓也
心の教育相談員	平間 典子
スクールカウンセラー	林田 直子
学校図書館運営支援員	西川 澄子
事務補助員	吉田 加寿子
学校用務員	中島 稔
学校用務員	岩戸 健一郎
給食配膳員	井田 美郷
ALT	Keli Christine MacDonald
ALT	William Polchinsuki
ALT	Brianna Hanson

令和4年度

校長	矢川 豊彦
教頭	大石 裕一郎
教諭	上野 隆史
教諭	中谷 愛美
教諭	廣瀬 美由紀
教諭	田川 尚子
教諭	平川 博史
教諭	柳谷 祐貴子
教諭	中村 一史
教諭	山本 愛
講師	麻生 なつ紀
講師	小川 航汰
教諭	堤 淳一
教諭	大田 良英
教諭	田中 幸一
非常勤講師	吉井 順子
非常勤講師	森山 英子
養護教諭	田崎 由梨
養護助教諭	山中 りな
事務職員	横田 遥香
心の教育相談員	平間 典子
スクールカウンセラー	林田 直子
学校図書館運営支援員	國分 千鶴
事務補助員	吉田 加寿子
学校用務員	中島 稔
学校用務員	岩戸 健一郎
給食配膳員	井田 美郷
ALT	Brianna Hanson

